

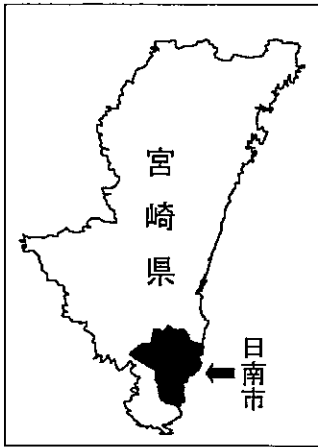
## 日南の漁業を未来に繋ぐ

—小学生を対象とした体験漁業の取組—

日南市漁業協同組合青壮年部

蛸田 透

### 1. 地域の概要



私たちが住む日南市は宮崎県の南部に位置し、平成 21 年 3 月に旧日南市、旧南郷町、旧北郷町の 1 市 2 町が合併し、人口約 5 万 8,000 人の新日南市となった。

旧 3 市町のそれぞれが持っている美しい自然と情緒豊かな歴史・文化、海の幸、山の幸が融合し、新日南市は県南を代表する魅力的な地域となっている。

特に当市の海岸線は、太平洋を望む南国情緒豊かで風光明媚なりアス式海岸となっており、日南海岸国定公園として本県を代表する観光地となっている。

### 2. 漁業の概要

私たちが所属する日南市漁協は組合員数が 268 名であり、平成 21 年度の属人水揚げ量は 8,608 トン、水揚げ高 35 億円を誇る。また、水揚げ高の約 9 割をカツオ・マグロ類が占めており、カツオ・マグロ漁業を主幹漁業とした組合である。

また、イセエビを対象とした磯建網漁業や小型漁船での曳縄漁業等の沿岸漁業も盛んに行われている。

当漁協は平成 5 年に市内の油津、大堂津、鵜戸の 3 漁協が合併したものであるが、それぞれの地域ごとに漁業種類に特徴があり、本所のある油津地区はマグロ延縄漁業や曳縄漁業、大堂津地区は近海カツオ一本釣り漁業、鵜戸地区は磯建網漁業、小型定置網、採介採藻漁業等が盛んである。また、当漁協の管内には大小併せて 7 つの漁港があり、漁港の数が多のも特徴の一つとなっている。

日南市には当漁協の以外にも、旧南郷町地区にカツオ・マグロ漁業を主幹漁業とする 3 つの漁協があり、本県を代表するカツオ・マグロ漁業の盛んな地域となっている。

### 3. 研究グループの組織と運営

現漁協青壮年部は平成 5 年の漁協合併後に間もなく組織され、現在の部員数は 53 名となっている（図 1）。

主な活動は、毎月行われる朝市での鮮魚販売などの各種イベントにおける魚食普及に関する活動や視察研修、漁民の森の下草刈りなど、様々な活動を

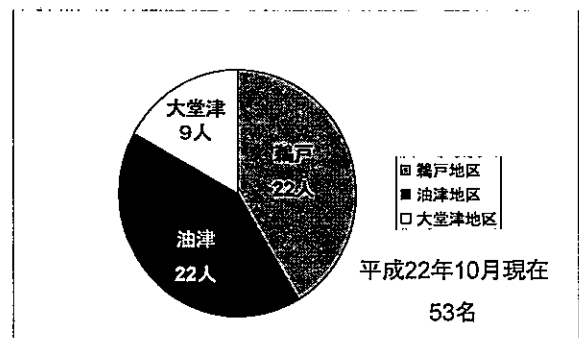


図 1 日南市漁協青壮年部の構成

部員らが協力して行っている。

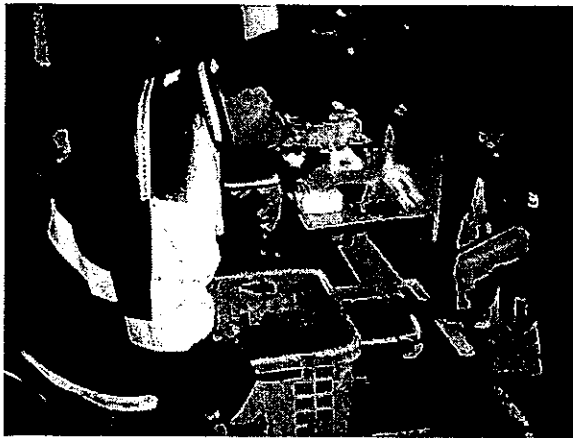


写真1 朝市での鮮魚販売



写真2 漁民の森の下草刈り作業

#### 4. 研究・実践活動課題選定の動機

平成11年当時、青壮年部に所属する漁業士が油津地区の小学校の校長先生から、漁業の盛んな地域にありながら地元の水産業について知らない子供たちが多いことを聞かされたことから、当時青壮年部に属していた漁業士3名が小学5年生約80名の前で漁業や地元で水揚げされる魚の紹介等、水産業に関する授業を行った。

このはじめての試みは大変好評であったが、学校側の授業カリキュラムの関係でスケジュール調整が難しいことや、漁業士だけでは負担が大きいことなどを理由に、翌年度に実施されることはなかった。

このような中、当時船釣り体験等のブルーーツーリズムの取組を独自に行っていた部員のひとりが、平成13年度の県漁業者交流大会及び全国大会において、自分の活動について発表を行い、この発表に感銘を受けた当時の青壮年部長が、青壮年部として子供たちに地元の水産業について伝える活動を行いたいと考え、青壮年部の新たな活動として取り組むこととなった。

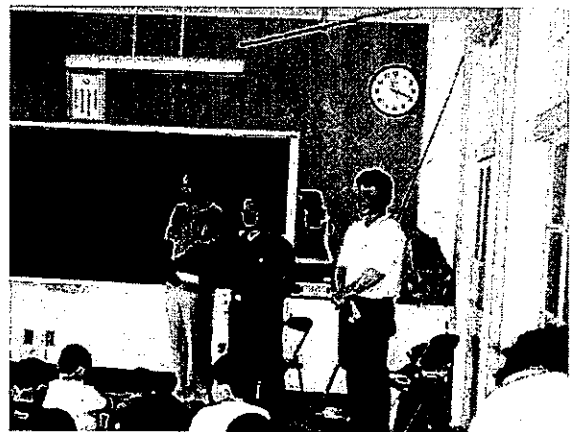


写真3 漁業士による水産教室 (H11)

#### 5. 研究・実践活動の状況及び成果

漁協青壮年部による子供たちへの体験漁業の取組は、「わんぱく漁業体験教室」と名付けられ、漁協、市、県らと内容について何度も検討を重ね、平成14年度からスタートした。

座学については、ビデオや実際に漁具をみせながら、カツオ一本釣りや曳縄漁業等の様々な漁法や、地元で水揚げされる魚の紹介等を行っている。質問の時間になると保護者からもいろいろな質問が飛び出し、保護者らもかなりの関心をもって参加しているようである。また、説明後はクイズを行い、毎年大いに盛り上がっている。

実際の漁業を体験させたいと始めた乗船と定置網漁業体験では、子供たちの安全確保に重点をおき、救命胴衣着用の徹底、警戒船の配置など、万全の体制で臨んでいる。

漁船に乗船する子供たちははじめは緊張するものの、漁船が走り出すと気持ちよい海風と今まで経験したことのない海上からみた陸側の眺めに感動し、大はしゃぎとなる。

また、定置網の網上げでは、網の中で泳ぎ回るアジやタチウオの姿に子供たちは感動して大歓声を上げ、子供たちにとっては一生の思い出になるものとする。

なお、荒天のため乗船体験が実施できない場合には、ロープの結び方などを教えるロープワーク等に切り替えるなど、荒天時の対応も十分に行っている。

更に、定置網体験終了後には、新鮮な魚のおいしさを教えたいと、地どれの魚を使った魚料理を造り、昼食として振る舞っている。

また、ただ食べさせるだけでなく、カツオの捌き方の実演やカツオのたたきづくりも体験させ、食育の一環となるよう工夫している。

平成 14 年からはじまったこの活動は、現在名前を「くろしおおさかな探検隊」と変え、これまでに計 8 回開催している。

参加者は子供だけで 173 名にのぼり、その保護者も合わせると多くの人々に、日南市の水産業の魅力を伝えることができたと考えている。



写真 4 水産業に関する座学

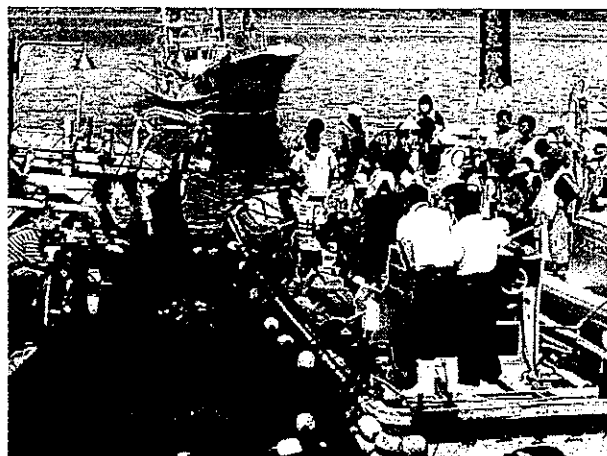


写真 5 定置網漁業体験



写真 6 カツオのたたきづくり体験



写真 7 昼食風景

## 6. 波及効果

近年、漁業就業者の減少と高齢化が問題となる中、日南市漁協も例外ではなく、平成6年度に520人いた組合員は、平成21年度には268名に半減し、組合員の平均年齢も58.3才から64.2才になるなど、高齢化が進んでいる（図2）。

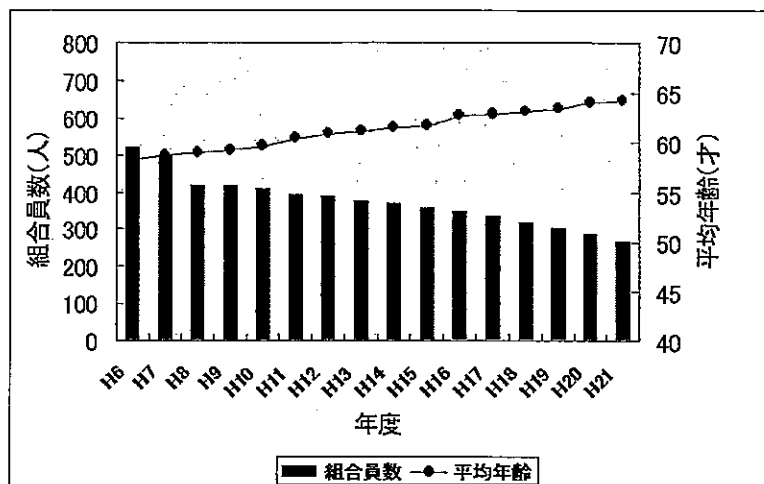


図2 日南市漁協の組合員数と平均年齢

私たちのこの取組は、子供たちやその家族に地元の水産業に興味を持ってもらうだけでなく、地どれの新鮮な水産物のおいしさを知ってもらうきっかけにもなり、将来の漁業就業者の確保や魚食普及、また、漁村と都市部の人々の交流に繋がるものであり、結果的に日南の水産業・漁村の活性化に結びつくものと考えている。

更に、この活動は青壮年部にとって年に一度の大きなイベントになっており、多くの部員が役割分担して協力し合うため、青壮年部員の結束力の強化にも繋がっている。

## 7. 今後の課題や計画と問題点

私たちの一番の夢はこの体験漁業に参加した子供の中から、将来の漁業後継者が誕生することではあるが、現実的にはなかなか難しいことも認識している。

しかしながら、保護者を含め、多くの人々に地元で行われている漁業や水揚げされる魚の名前、新鮮な魚のおいしさを伝えることだけでも、この取組は意義あるものであると信じており、何よりも子供たちの喜んでくれる顔を見るのが我々の活動の一番の原動力となっている。

近い将来、この体験漁業に参加した子供が我々青壮年部の一員となって、私たちと一緒に青壮年部員活動に取り組む日が来ることを夢見て、これからも日南の水産業や地域活性化のために、部員一丸となって活動が続けていきたいと考えている。



写真8 体験漁業に参加した子供たち